



俳諧
せみの
小川

晩翠編
元禄二年序



吏鳥

楊之之 或能人 是所森平
之 象也 字也 心 小 種 松
山 田 文 之 美 秀 之 字 體 係 松 也
山 松 初 來 之 字 體 乃 之 一 所

由上本也高無自之享之之祿
之官他之解年也無所之其終
以家之主備守其夫之無終之補也
之之缺也海我之佳也之
似甲而穿穴鳥之學子之弱之者
之之之之之也視此自其之之

可乎哉

龍之之祿之之之之之之

能之今之人

海くろくくくく色の柳橋に

和泉

あゝ美目くあゝ馬れ子

晚翠

上月や美舟く美乃ありて

湖春

雲は松波とく船きくら船

和友

生山の舟なりしに沖津船

信徳

殿酒を注ぐれ余情あゝ人

素雲

月と夕八朝の長し事ばあ

常教

ゆとくもたえり 桐の葉れ風

執筆

蕙余の屋あつく 早稲穂摘

翠

ま歌はと見え下とらま

泉

まま目も命あは河柳も

及

あまのりーまきぐくはく酒の香

春

清きあふ 女よ指のこりたれ

雲

何とく海はひは穢多うあは

徳

皂莢の陰と白ぬれ傘はて

泉

うとせのこしあはいもる瞿雀

牧

年とてはに蝶蜻蛉と凍りけ

春

夜棧よりけりありけりその窓

翠

雅か妻踊るまはくけり人

徳

為しあふと薫つて移れし

及

今は兜念佛の御本如き

牧

あゝぬ 生る 雷れ 須磨

雲

^名鶴の何れ 炭よ 啼りて

翠

月乃て 方に 千家 凡種

泉

家造の とも 伏人 似て 不

及

津く とも 傾城の 奇

春

うき 名も 賞む 臍の 異眼 帝

雲

楠の らつ 温純 かつ 吉

徳

け 海乃 障の やう に 算 及て

泉

御 師 づ 祝し ね かつ 吉

牧

名 月 れ 情を 都 かつ 吉

春

二 人 づ かつ 吉 里 志 かつ 吉

翠

死 とな ら び かつ 吉 多 かつ 吉

徳

帰 かつ 吉 燕よ 泪し かつ 吉

及

うさぬは尾より奥のふと解し

牧

とうじりもきぐか 扱スガしげき

雲

傍トメ川やよもかぐよ奥多と

徳

我をうけ経あや免所かり

牧

勝キリ劣れ教とかく世まほく

雲

今何量あり 上松の刺

及

あまの卯つ八角乃人い原

翠

年と題とと 皇に根のねき

泉

花いまこ味方し運とつがとら

春

あま邦龍のいさなりひとら

良佳

九條もぐあものほろも泉

晚翠

胡蝶ゆきぞ 藪殿乃琴

素雲

山奈りハルのアサケつらき

如泉

まろいれひりきと心

幸侘

萩り原半に奈ゆ夕涼

如帆

漆へふゆき 奈れ帝船

如琴

月よりとあはれよあはれよあはれよ
思也

枝うつかりの 秋風の松
枝黒

綿^ウ毛をくく菊乃自らをくく
執筆

ゆれまの夜よあはれよ
翠

ふあはれくく神の目よ馬をくく
雲

貴代薩摩はははれくく
泉

とまめくくおは伏人れ揚をくく
仇

あはれ名とあはれと上尊の施主
帆

あはれ火の規のゆれあはれくく
琴

あはれあはれくく 流淋くく
也

福原の京を縮葉れ何れくく
黒

佛のくくくく 芦の穂の寺
雲

夕月夜海士のあはれくく
翠

あはれあはれくく 解わくく
仇

あはれあはれくく 解わくく
仇

花回く畫れ真んをばり執り
夏とと筆のふん極させ
^名宇程の夢と僧正かつき
女中れ船の言の波行
しらつとく田子の燕あつ奇うた
新らよととと智天の森
表志つらよ番の波呼あしん

泉 琴 帆 黒 也 翠 雲

うさつとくあつ人の望あ
横乃もつと波酒の令下く
らのつとくれ 昔原れ盆
月巻して筆ありつる思ひ行
つがおほくゆくと誰う妹
花のつとく筆の筆のつとく

泉 仇 帆 琴 也 馬 雲

しらつとく田子の燕あつ奇うた

雲

カミフロ
土窟れ七日と入ると日永はよ

泉

麻緒書——人々今行

燕

おと下刈^{カリキ}葱の露^キのりきや

翠

一村よりして建てる所は寺

仇

のりそめれ^{カミ}糠五番り三番り

帆

銀乃威と押ス物ありあり

琴

小糸の糸とく玉^マの腋の淡

雲

軍よ家乃 焚きもふれさゆ

泉

何阿流よ古今傳又よりしる

黒

祝いの果しなりよ八十れ賀

也

入のひのふもと染の櫻の卯

言水

扶しなまくり水乃やまを

雲麻

腰籠よりわさ小鮎おとさく

信徳

給るら月のゆうし惟子

仙庵

人の氣よしぬまをたて

鳥全

疾らつりぬるまを心塗金

真道

晴ろととと鞠六蹴られぬ月あはじ

為文

鄙^ウの因^ヲ一落むるの房

助豊

沖の石今は指^ウテス物ありと

茂門

あなごのひねる 神子れ一門

晚翠

うらふもく斤^サ筆^イもつとみほし

執筆

此衣の霰^ミ一しらぬ 乾^ミ年^シ

水

清士の火^シは^シくまのゆり^シ

康

あや一拾子に文流て壺

徳

國くの夕^シの^シま^シと^シ須^シ磨^シれ^シ果

庵

おろかなむじ虹乃さえん

玉

甲^シ毛^シの^シ中^シに^シま^シる^シ 鈴^シ頭

道

あなごとくさ^シ次^シ萩^シの^シ戸

文

移^シさ^シび^シ程^シ泪^シあ^シぬ^シ 魂^シ糸

豊

ア^シら^シぬ^シ氣^シの^シふ^シつ^シ心^シ月^シの^シ神^シ宮

木因

ぼろくそ花のぼろ水襟うらえ

靴造のちり 雀それ行

^名大佛の管口へゆくのまれる

本士あして 厄神のり

後一物や 押コキかとりぬまをり

地とはんて 玉母のちり

水さ月の湯殿が谷と遊ひの

翠 門 水 庵 徳 麻 因

携ふととれと 齒カ黒くゆれ僧

富士乃景一里くぬめつと

猿う津後の 歌は 楮

傾城と今つぐまのや素はて

阿アサカハのよりのとますられ月

露アサカハれとひり登み松付じ

毒あつ虫は喜ぶ啼ぬか

翠 玉 水 文 道 門 徳

頭礼れせらる那の人なま
あしふ計の事とさざら
国がさ年はいさまうさるん
めくたさ頼とらら浦船
凌れ糸とされの草川て
只かこねものさる名とふ
誰かめあひらとけらる物ね

庵 奥 廉 因 水 門 豊

哀れみゆゆは 雷むらもあま
情少は内裏れ山守花折く
舞ぬ胡蝶く舞かへら

翠 道 玉

初夢の寐起よ似たりかきこは

湖春

ぬきてよ神よまづる綿紙

和及

のあゝあゝ未萑と融の地よとて

晚翠

何しとゆくと櫻らね年

周也

と今娘の行方よと涙目のまり

竹亭

朧の月れゆら半の背

衰号

打石の鴨うくさくさの我らち
 人の脚走よ傳やわらん
 斤を根へ掠よおひく霰をし
 富士とくさくして原よとまらぬ
 ねめよじゅうゆり醫者れ其ら遠き
 いつとゆるさぬ ムラキ 漁翁の酒
 たり後や塩波車のりぬ
 也 翠 及 春 執筆 言水

ともめて法へ 倦ぬ脚心
 若猫の風乃葵よされわらん
 次ぐてととくく 巧ぬ榴毒
 織女とつとらんるれ池堀て
 あうう酒磨り月の又所
 晴まつやぬら新て湯よ二言り
 上も者のあふささものいふ
 也 春 及 水 門 弓 亭

名
玄水の介^ヲ紀とたのむせり
尾と継せらる鷹の五居^{モト}
足首よわくわく芥川^ヲ
京よらわく箱八十
娘よはあひあうもえらう
のひくくも合せあふ
苔原の文 唾^{カミ}あうさく

翠弓亭水門春及

うみよめくぬ軒れ蓬生
いつの代う錦よ包じ堂位貴
商人のよは 商人とあう
土よらう禽獸とぬけうに
小田の毒わく 金山の水
りどのや夜と迎う毎の杖
捨んつれとあれ肩衝^{カタウキ}

翠也亭弓門水及

身まろて遊少と曲よ月うねく
 目とわく鵲よまうのひまうめ
 二の背らち奥の推ら法師ウ
 沿連くろ中へりか 意神
 名案とらる園あり詞のじ船あり
 立ちと命 長流の帝
 はとす年よ 移入らと事や
 及 弓 亭 也 翠 水 春

身は徳もあまの鐘多しをじ
 花よさき早ふ函ちあけれまがこと
 曇み色乃 外とさく 原 門 水 春

見送のこゝれ中なりどうし子規

我黒

ゆくはききあふ水とけの草

野草

櫻桃^{ユスラカッ}摘みゆく女乃義うもく

茂門

あされくはうもよと紙洛の火

晚翠

あまつ下れ弦月^{ユミナリ}たがらうもよ

草

鶴書よん 吹風

黒

秋のみの秋葉は遠くまで

翠

浪花もくさ 波の音も

門

うらなは板室の坊主も

櫻

糞ク糞のくさあられが

草

花られを梅打刺くさうり

黒

目のけぞは後さ所中のみ

翠

二人をくハ坂の文とくさる

草

厚ぬ物とく 珍う掛る

豊

極まうに子持の苗れわら

門

まごもはれ ぬらあ新

黒

あひびくの古室の僧ホカツケ身

豊

御前より下ろ ね虫れ言

草

谷風呂と待る八月もさつう也

黒

挿サテきくくさる 病虫の園

豊

春野もどくをくはるる新たぐ

和及

風の柳しんうらとるる花は

門

名かぐれ見れ八つは月とゆと石枕

草

例乃男う垣常くまら

黒

布棧と下りつて暖とぬあて

叟

じの廊女葛蒲ふ今日

及

同合れ孫乃調子にけうぬぬ

門

憐もあゆ寺乃御衣憐

草

のびう程のひら松のうとめく

黒

不破と端の砂かろちあ

叟

あふこのや浅井れ城落よらう

及

志のひくよ者喰ぬ目

門

梓^{アツサ}弓^{カフ}さく^フち^ロち^サう^チと^ツ洞^チや^チ

草

唱歌と梶葉^カのま^カま^カま^カま^カ

黒

月あつてぬふ鱗のめりき
 の〜虎越〜ト旁乃夷坂
 二之丸と姉小のくのれお
 陀羅尼とま〜く帯にけ込
 凍る軟い草焼えけし
 鴨又よゆりね 足煙乃解
 抱く子と蒼キマよ捨る首尾もあき
 及 奥 門 草 黒 及

袈裟衣あ〜く〜く飛あ〜
 一〜の〜の〜の〜の〜
 わ〜た〜と解モロコ 釣〜ん
 門 草 黒

わとよはつ物つまらわとよ
物と花とむとよ桐の木
人やとび我と沿ヨリの衣うけと
鏡ヨリとと馬途へと
る潮よ苔のよとと損ツク解トク
酒家の外は火れぬわ

茂門

其歌

素雲

如泉

元清

和歌

氣味さくは月の子せとせらる程

晩翠

さるし甲や秋行しじ笛

方山

大くそま事のうたよ言次國通り

貞隆

茶と熊れ 飯とさく音

松木

紋のあら積と氏れさるそ

執筆

鞠蹴て伝じ 雲深乃里

門

芋の竹よ城のま切あし

談

野郎かえよ田舎行らん

雲

蜜^{ニラトユ}丈の料と金よ代^カ捨く

泉

名とかわらう 今日れ系捕

清

神の地と草一りこま地こかを

及

臭啼比の水乃のれつま

翠

い〜月夜床花宇治へ越らん

山

魔よ釣旁よ 兎と海とを

隆

巻うらる経ふ園とらる花の蔭

木

百千の燕くねらやうを

諷

春乃池名侍女ヲモト童よ棹うせ

門

わや一の一文と射射る

泉

風船よ首茶碗のそねる

雲

海秋すらんくんの玄果

及

止トまかゝ末のつげとあは立尾

清

鱒シメサキたぐくふて嫉しや

山

多羽車 淀の特トキハ川より

翠

まろめく凍り古橋乃宮

木

役者との色をつふあはれ

隆

ふくかきりて空乃風呂焚

雲

かこまりてかろ新暑ささ夜の重

泉

電宮と晴く京そ夕いろ

清

ひと昔の躍る月よまらせたり
 萩の利^ト経よ今日ハ丸^ウころり
 庭^ウを^ー身^レれ^膝は^白く^瘦
 ひま^津を^言や^防壁^ノ衣
 不破の園^御舟^うう^じを^る
 男^ノ分^ハあ^まふ^田ノ^草
 雲^リの^え船^ある^と目^あらん
 雲 隆 及 翠 山 門 談

朝^ト宮^モ曉^ノの^あけ^けの^酒
 庭^舎乃^門松^花と^待ん^ろり
 あ^さら^ひ川^があ^ら代^の網
 清 泉 木

花^{カイル}ねわや^{カイル}か人もおねどゆ^{カイル}ねる
負^ヤ薬⁺う⁺津⁺波⁺の⁺に⁺ぞう⁺一⁺箱⁺
みい⁺つ⁺れ⁺れ⁺あ⁺一⁺間⁺は⁺風⁺う⁺あ⁺て
節⁺分⁺入⁺言⁺あ⁺何⁺ら⁺あ⁺ひ⁺さ⁺さ⁺
繪⁺の⁺書⁺く⁺橋⁺の⁺跡⁺と⁺な⁺く⁺さ⁺あ⁺ら
ゆ⁺く⁺張⁺や⁺美⁺の⁺名⁺乃⁺切⁺る

常牧

晚翠

全

牧

中

翠

釣舟も寐さぬ維新の
帆かたれくさかたの里
みとくれと鳥憎み敷たがま
娘う櫓さいつのゆめを
ふねのあかりとれぬのうら
二目んらりー素呉れ松ら
姉産事^{ウム}ばらうふ海士れ家

全 牧 翠 牧 翠 牧 翠 牧 翠

さじこ^ハかりれ 親喜れ石
あいのあけりもと奥まなく 靴
産みくさく 温泉のたぎ
ひよりてけのおぎん^ハ酒常じ
あつあつけとあやむとあ
壺よまのけたくく^ハあまあか
まうもの月れ時原よ^ハ

牧 翠 牧 翠 牧 翠 牧 翠

東は花の山のまき下由
うけりまきたき 七草のま

翠
執

うけりまきたき人程じま清多式
とれわらわれじまき 鞍堂
窓の本れ何ぬらうまゆりわく
寐まぬらうに太刀打てら
うしうし代よ兵庫とるま
まきうらゝいせく名月の牛

晚翠
常牧
全
翠
命
牧

おひこの神は芭蕉乃翁

全

夢を根うたのねれ寄生

翠

龜の子れお晴乃翁

牧

我ら神守の公

翠

愛々とも危燃よ

牧

矢芭やいつこ

翠

ぶらくと蓑よ

牧

うたせてみこ

翠

意あつた

牧

流ーや

翠

ゆらら

牧

あま

翠

秋

牧

神食

翠

あはれ素袍の胸は越とめく
らり明と夜と山崎れ山

改
執筆

石原よ物のおせり也夕月夜
蚊く足とらりて寐入船人

櫻曼

妻為とねのさう成量り人

我黒

まゆらと見くして虹乃らぐまら

和及

うのまらも内裏れおまはる念めりさ

翠

睡の肥くのはる梅の口

曼

ウ
あつ草乃のびりまの 延入源

及

涅槃は日に入らぬ一ヶ寺

黒

三痛の業と賣と名をまき

豊

ととやとひある 夜の驚

翠

山菱の海くくよ津りの宮

黒

あつ炭本と伐とつ次吉

及

振衣茶入たつてくつ宮

翠

牙の料んはつり 橋立の夏

豊

ふりや丸黒丸賣と種と務く

及

記録え付——二月乃市

黒

龜菊うゆ——と胡蝶よ合せり

豊

けりひと抱じりめれ 萩

翠

名
秋風の伏元の留まると新て

黒

身は寝惚——のらるる底

及

物よまぬ事への所陀よたの玉

翠

ありきかたき 糸橋の奇

豊

悪う代ハ大海日とちつりかく

及

信を思してあつ聲もあきり

黒

的目よ又誰か身が人の死をう

豊

あきふくも 斤鏡や

翠

水国と四國の心と見えく

黒

あひの形 けいん 文科の月

及

きりや 楠芥はく女

翠

木のり 夙居ニ彦井とうと啼虫

豊

あもぬ乃 肝黄紙とやきひく

及

時夜よもく 札ととくり

黒

羽目よ 舟かたぬ事候

豊

身の八十まて 鏡るる人

翠

東宮の坊へと花と雨の音
梅のやうも春も如舞

黒

及

熱さの中は氷室へ人と清水の

聖

竹とらうの意影の花

晚翠

ふらり尾の鶴風よらりて

全

くや霜うらり食時

及

ありつげの櫓縄はつふ番紙

全

秋のく蠅のねりナリ

翠

思ふ程素山子れりる^キ境^キ

全

乱りら^レ花^ノ國^ノの氣とみ

及

あき^ニやと^シまの^ノ筵よ^ハ整^ス梳^テ

翠

思^ハさ^シま^シる^ノ氣^ノの^ノ實^トと^シわ^ク

及

た^ハわ^クハ^ハ麻^ノの^ノ帯^ハも^ハ消^ス心^シ

翠

あ^ハか^ハへ^ハま^ハわ^クく^ハま^ハの^ノ宰相

及

今^ハさ^ハら^ハに^ハ花^ノの^ノけ^ハは^ハ寐^ハ今^ハの^ノ夜

翠

人と^ハ対^シふ^ハいつ^ハの^ノ月^ノ夜^ト

及

あ^ハか^ハあ^ハの^ノ石^ハあ^ハく^ハく^ハと^ハ佛^ノ達

翠

青^ハ紫^ハい^ハら^ハふ^ハ栲^ノ侍^ハい^ハ小^ハ金

及

下^ハ水^ハや^ハ奥^ハあ^ハる^ハ花^ノの^ノ香^ハよ^ハ流^ス

翠

蝶^ハよ^ハま^ハつ^ハま^ハく^ハむ^ハよ^ハ長^ハ女

及

^名東^ハ海^ハの^ノ秩^ハ父^ハと^ハ東^ハ風^ハの^ノ後^ハ心

全

あ^ハり^ハぬ^ハら^ハは^ハら^ハよ^ハ素^ハ良^ハの^ノ伽^ハ羅^ハ伐

翠

らつやうあぶねれ神の絶よと

及

夜のそらやこ水潮乃際

翠

舟ゆきまの空よ龍おし次

及

待よひさしそやせくの松

翠

氣遠と笑まゆら意あつも

及

こゝろと信せし初るせり

翠

夏木と入心の御前下涼こ

及

京まろくと根と蕉とるま死

翠

徳坂乃キリとものよまきり

翠

地鳴はけし風の良

翠

浮せしと死人とけり人の名

及

わきくあさゆ一葉れあく

翠

大く六國とく舟とて月空

全

比やあまのこゝろあ

及

猪の牙よきわら花の本よき

全

里れ較

雜と苗代

翠

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

比敷と塔のてんてん白面水

晚翠

京のくつきはるるれ屋根

言水

助あはす川ふるや別津ん

仙庵

脚は布衣のかと長ら程

翠

高月の一宿は酒の標紙

水

茶紙糸の流河郷との秋

庵

金満チシの歌はくトシヤ

翠

人目志のりトシヤ櫛らぬぬ

水

琵琶トシヤれきもトシヤ終るトシヤ

庵

名もつねトシヤわつトシヤせのトシヤ苗

翠

子の親トシヤもトシヤおどトシヤあつトシヤ

水

陣場トシヤのトシヤ意

庵

水トシヤのトシヤ流トシヤ

翠

秋乃夜トシヤふトシヤおトシヤ龍トシヤのトシヤ火

水

春乃山トシヤのトシヤ意トシヤ

庵

初々トシヤ風トシヤ竹トシヤ伐トシヤ

翠

花トシヤのトシヤ流トシヤ

水

基トシヤのトシヤ意トシヤ

庵

作者名寄

京之位

如泉

言水

常牧

和及

素雲

湖春

我黑

方山

信德

仙庵

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

元清

如帆

烏玉

竹亭

袁弓

貞隆

助叟

幸仇

如琴

貞道

周也

其諒

松木

為文

良佺

美濃
木因

脩前園山之住

杉列
櫻叟

茂門

野草

雲鹿

晚翠

京寺町通二条上几町

井筒屋

筒井屋三郎板行

木凶

長谷

021

